

初めての講演

服部新聞を出版してもう三年が過ぎ四年目に近づいています。その服部新聞の購読者で事務所が芦屋に有る建築士の庄司さんに講演のご要請をいただいたのは今年の二月の事でありました。私は当初この紙面で取り上げようと考えましたが、大勢の見ず知らずの方の前で話をするのは実は初めての経験でしたので余計な緊張を招いたら困ると考え皆様への報告が後になりましたが、緊張せず何時もの服部節で話が出来たので積極的にお知らせしたほうが良かったかなと思っています。

この企画は兵庫県の建築士さんが中心になって今年の四月から来年の三月まで毎月開催される集まりです。「兵庫県で住まいを楽しく語ろう」がテーマの座学の会です。講師は落語家・建築士・木工職人・瓦職人・表具職人・左官職人・材木屋とバラエティに富んでいて凄く興味深い人選です。私は六番目の出番でした。

私の講演のタイトルは『良質木材と付き合い方』でした。この企画は私が製作した冊子、木材の蒔絵14ヶ条『知らない方は損をする』を要点だけを纏め1時間半の話の構成にしました。

ところでこの講演で強調したのは、大まかに以下の5点でした。

- 1、私が営んでいる雑木屋の話
- 2、材木屋の役目の話
- 3、サクラと言う表現を使った樹種は多く有るように見えますが実は少ないのです。
- 4、材木屋は木味と言う表現をします。木味の違いは産地の違いです。
- 5、日本の森林の話

1の話は雑木屋の成り立ちの話です。→昔江戸時代庶民はスギ・ヒノキでは家を作られなかった。そこらに有る雑木（ザツボク）で住まいを作らざるを得なかった。その名残で広葉樹を扱っている材木屋の事を雑木屋と言うのです。

2の話は材木屋とは目利き屋です。→目利きとは単に木材が解る事だけではなくお客様の必要としている材と材質が理解出来て適切なアドバイスが出来る事です。

3の話はサクラと言う表現をしている商品が凄く出回っています。→ネットで大量に売られている中国製のフローリングは実はロシア産のカバ材を用いた原産地もはっきりしない環境に優しくない商品です。

4の話は木味の話です。→この話をエンドユーザーの方たちに伝えるのが一番難しかったのですが何とか伝えられたと思います。話の内容は良質材は木味が良いです。良い産地が良い木味の材を生み出します。

5の話は日本の森林が昔は凄く多くの優良材を搬出できる森林でした。しかし現在の森林は荒れ果てています。しかし荒れ果てたとはいえ日本のスギ・ヒノキは世界一の品質であることは事実です。と言う話です

ところでこの講演に私が懇意にしている業界紙東洋木材新聞社の島崎社長が取材に来てくれ、私の講演を聴いてくれました。本当に感謝します。

後日島崎社長から何時もの服部節が炸裂しましたねとお褒め頂きました。この言葉を聞いて木材バカの私らしく講演出来たと思います。

最後にお世話になりましたスタッフの皆様有難うございます。事務局の皆様有難うございます。

材木屋の小生でお役に立つことが出来たかは解りませんが、精一杯させて頂きました。

私でお役に立つことが有れば此れからも何でもさせて頂こうと思います。宜しく願い致します。



材木屋として当たり前的事をバカになりきってやる事以外小生の値打ちは無いと思います。

広葉樹シーズン

先月の九月十七日に広葉樹のシーズンが開幕しました。九月の市に出品された材は、まだ立ち木の葉っぱが落ちていない状態で伐採された材ですが、品傷みしている材とそうでない材が有りました。

昨年と材質・量を比較すると出品量は30%ダウン。品質は50%ダウン（径級の細化→60センチ台の原木が無く50センチぎりぎりの原木ばかりになっている）と言う状況です。その中で特筆出来る事は、広葉樹の主力樹種のナラ・タモの人気の下がっていることです。確かにナラ・タモの良質材の出品は殆ど無い状況ですがそれにしても広葉樹の王様のナラ材の人気の無いのが不思議です。

ナラ・タモ以外の樹種に凄く人気の有るのかそれとも絶対的な出品が無い事でエンドユーザーの荷動きが悪いにも拘わらず、原木の径が細くても良質材は大変強含みでした。

九月の広葉樹市に出された材で材質から見て割高に思う樹種は、カツラ・セン・ホオ・アサダです。特にカツラは凄く割高に思います。右の写真はカツラ原木です。

凄く曲がっているのが解かると思います。全長5.6メートル有ります。長さを三つに切れれば何とか使えるのですが、切っても完全な直材にはなりません。特に芯の出来の悪いカツラ材は外見から見える少しの曲がりや、製材すると大きな曲がりになる事は日常茶飯事です。私はこのカツラ材の入札に参加していましたが、最初の下見価格は冷静に見ていました。しかし他のカツラ材の落札傾向を見て30%価格を上げましたが、落札には及びませんでした。私より20%高い札が落札価格でした。



左の写真はセン原木です。夏山の材ですが品傷みは殆ど無いです。写真では少し解かりにくいですが直径52センチ長さ4メートルがこの木の寸面です。この材はセン材の優良材です。入札の札は凄く多く入っていました。落札価格は凄く高い価格です。

ところで同じ様なサイズのセン原木が10倍の開きが有ることをご存知の方は少ないと思います。目の荒いセン原木は全く人気の無いのです。目荒のセンは製材し乾燥道中、非常に割れ易いし又板が凄く暴れるのです。棧干しするときに多くのマンボを入れて品傷みを少なくする方法（下の写真マンボを2.5センチ間隔に入れ品傷みを少なくする干し方）を取っても暴れて一人前の板に

ならないのです。広葉樹原木の絶対的な量的確保が難しくなっているのも皆様にご報告させていただきます。カツラ・ホオ・セン・アサダだけではなく、クルミ・シュウリ・シナ・マザクラ・マカバ・ニレ・キハダ・イタヤカエデ等のナラ・タモ以外の所謂雑木（ぎつもの）も本当に少なくなっています。ナラ・タモ以上に良質材は本当に少なくなっています。

以上の様な状況に有りますので、私はお客様にお願いしているのは、『必要としている材が必要な時に無い可能性が有るので、良質材が何時出品されるか解りませんから、出たときには少なくとも結構ですからこちらの本当の話に耳を傾けて下さい。』と言う事です。



私は仕入れ困難な状況だから、買ってくださいと言う話でこの記事は取り上げていません。本当の話を書いているだけです。広葉樹優良材は本当に少なくなっています。

日頃の仕事は忘れる事も大事な。

先月9月の末にアラスカ産スプルース原木を製材して主に建築用材を取りました。ここまでは何時も服部新聞で取り上げてきたので特別な話では有りません。しかし材木屋の本当の話をしたくなつたので、書きます。

この話は仕入れから始まっています。九月の初めにアラスカ産スプルース原木が岸和田に入港しますと商社のI社の大番頭さんが弊社に来店されました。そして僅かでも商売してくださいと仰って頂いたのです。この船には二社の商社の材が積まれていました。私は当初I社のスプルース原木をさせて頂こうと思っていたのです。下見を何度もしたのです、私の気に入る材が無かったのです。それで積み合わせの他の商社M社のスプルース原木を購入させて頂いたのです。値段は自分の希望価格とかなり離れていました。それでも気に入って惚れた原木なので、購入したのですが値段が高いのに結果はあまりよく有りませんでした。岸和田に入港するスプルース原木は二社のどちらかを必ず購入しているのですが、成績は何時もI社の方の出来が良いと言うデータが有るのです。

私は亡き父親から原木を買い付けするときは、惚れて買って良い材とそうでない材が有る。惚れて買った材の場合、お客様に喜んでいただける材でなければ買ってはならないと教を頂いています。しかし冷静に買い付ける事が望ましいとも教えられています。今回の場合惚れて買いました。製材した建築材の品質はお客様に喜んで頂けると思いますが、歩留まりが良くありませんでした。おおよそ5%の歩留まりが悪かったです。製材する技術で何とかしましたが、成績はチャラでした。損は避けましたが実質損です。

原木を購入する仕事は100発100中と言う成績は絶対出来ない事だと解かっていますが、何分この不景気が続く世の中では僅かのミスも許されないのも事実です。

ところで全ての原木を製材する毎に製材日誌を付けてデータを取っています。勿論スプルース原木もデータが有ります。そのデータから見るとスプルース原木を購入しているI社とM社のデータを比べるとI社の方が圧倒的に数字上優れています。しかし何故か私は原木の下見をすると忘れてしまうのです。そして後にデータを思い出すのです。皆様不思議に思いませんか。

私は原木を女性と同じだと思っています。惚れなければ結婚出来ません。惚れなければ原木を買えません。しかし男って生き物は少し何かチャームポイントが有る方をどうしても選ぶ本能が有ると思っています。惚れなければ買えない、しかし惚れすぎて買うと儲からない。原木の購入はこれの繰り返しばかりです。



左の写真は買い付けを見送ったI社原木の写真です。右は買い付けたM社の原木の写真です。どちらのほうが良く中身が出来たかは誰も解からないと思います。結果は解からないのが良いことだと思います。

私の商いの方針は浪花節も大事にします。I社もM社も大事な仕入先です。末端の売れ行きが悪いとき凄く私は悩みます。出来る事なら両社から買い付けが出来たほうが良いのは解かっていますが、何分政権が変わりどう言う風な経済運営をするのか解からないし、最近の住宅事情では良質木材が使われなくなって来ているのも解かっています。それでも僅かずつでも建築内装材は出ています。

商いとはする方が凄く楽です。断ることは商いをする10倍以上のエネルギーを使います。皆様は解かりますか。

商いも人間関係がきちんと出来てこそ成り立つので有って値段以外の要素が本当は多いのです。

第五回服部商店勉強会

10月10日の土曜日に第五回勉強会を大阪府岸和田市に有る服部商店本社にて午前10時から11時半の一時半の日程で開催しました。第一回はタモ原木の製材、二回目はスプルス原木の製材、三回目はナラ原木の製材、四回目は今年の一月に開催したチーク原木の製材でした。四回とも原木を製材して原木から製材品になる工程を見ていただきました。

今回の開催を原木の製材から違う企画『製材品の使い方』に変更したのは手持ち原木が無い事は確かに有りますが、建築士さん等に木材の長所ばかりを説明するのではなく、木材の使い方、木材の欠点を説明しなければならないと思ったからです。と言うのは現在の木材業界において私はもう既に若手では有りません。次の若い人材が育って欲しいと言う願望が凄くこみ上げてきたからです。

ところで今回の詳しい企画は以下のとおりです。

- 1、 アメリカ産広葉樹製材品の説明
- 2、 タモ材の説明
- 3、 造作材に使われている最もポピュラーなスプルス材の説明

最初にご説明させていただいたのは、広葉樹製材品の等級ルールはアメリカのNHLルールが基本になっているが、運用方法が全く違う為に建築士さんに正しい情報が伝わっていない。その為に例えばウオールナットの造作材が簡単に出来ると思われている、事にも象徴されています。

アメリカ産広葉樹製材の内ホワイトオーク・レッドオーク・ハードメープル・ホワイトアッシュ・イエローポプラ・ブラックチェリーは節が少ない方で有るが、アルダー、ブラックウオールナットは節が比較的多いのです。

次にタモ製材品の説明をさせていただきました。厚み34ミリの板を比較したとき40センチクラスの原木で製材した製材品と60センチクラスの原木で製材した材は全く違う物であります。それは狂いの問題に繋がります。と言う話です。太い原木から製材した板目の中柵の板は端の方は柾目になります。それが狂いにくい物作りに貢献しているのです。服部商店のタモ製材品は90%以上60センチ上のタモ原木で製材しています。それが見た目だけでなく見えない狂いに対処しているのです、と言う説明です。

最後にスプルス造作用の24ミリの板を用途を分けて木取りしました。良い板を使わずに少しアテと言う欠点の板を使いました。

アテと言う欠点は細かい木取りをすれば曲がります。しかし巾が有る程度広い窓枠等に使えば曲がらずに木取りが可能です。それを皆様の前で実演をしました。良い材は誰でも使えます。どうしたら安く良い物が買えるかと言う事を参加して頂いた方達にはご説明できたと思っています。

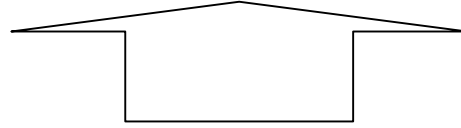


参加して頂いた方たちの業種は建築士・工務店・不動産業・家具デザイナー・家具作りの技術者・材木屋と色々なジャンルの方たちでした。

新聞上で陸の孤島の岸和田まで三連休の貴重な時間をお借りした事について感謝いたします。

次回開催は来年春にアメリカ産広葉樹原木の製材を見て頂こうと考えています。

F A X 0 7 2 - 4 2 2 - 8 5 7 7



第五回勉強会のアンケートの御願い

この度の第五回勉強会は服部商店の材を買ってもらうと言う様な事で開催しておりません。木材の良さだけではなく、木材の欠点を見て頂き一緒に物作りを考えてはどうかと言う思いから企画しました。木材に携わっている全ての方達にエンドユーザーの方達に本当に人間の環境に優しい木材を広めて欲しいと言う思いを込めて勉強会を開催しました。

遠方の勉強会に参加出来ない方々の為にDVDを作成しました。

1、 今回の勉強会に興味がある。

はい

いいえ

2、 DVDが是非見たい。『ただし実費にて御願い致します。』500円切手をお送り下さい。到着次第発送させていただきます。

はい

いいえ

お名前	
会社名	
〒番号	
ご住所	
お電話番号	

(株)服部商店

TEL 072-438-0173